

一人一人が創造する越廼の未来

— 地域で青少年を育てるまちづくり —

越廼公民館

1 越廼地区の概要

越廼地区は、福井市の南西に位置し、西方は日本海に面し、東方は急峻な山並みが続いている。東西 1.8 キロメートル、南北 8.1 キロメートルと細長い地区である。総面積は、15.31 平方キロメートルで、その 8 割が林野で占められている。



【蚊之瀬海岸の不動の岩石】

日本海の荒波によって浸食された海岸線は「越前加賀海岸国定公園」に指定されている。また、越前水仙発祥の地であり、日本水仙三大群生地のひとつとして広く知れ

渡っている。

縄文・弥生遺跡の発見、古代から中世にかけての数々の伝説や有力な豪族の存在など、地区の歴史はかなり古く、朝倉氏滅亡後に関わる伝説もある。江戸時代には、幕府領と福井藩に分かれて統治されていたが、明治 22 年、旧福井藩領が、「越廼村」、幕府領が「下岬村」として発足、昭和 27 年両村が合併して「越廼村」となり、平成 18 年に福井市と合併して現在に至っている。

海岸線に沿って 8 集落が点在し、全ての集落において少子高齢化が進んでいる。平成 17 年には 1,629 人だった人口は、平成 29 年 1 月 1 日現在で、1,341 人（584 世帯）となっている。

2 次世代の担い手の育成

(1) 人との関わりを学ぶ「異年齢合宿通学」

①合宿通学の始まり

以前は、山間部の子どもたちが冬の時期に集団生活を行い、通学していた。平成 12 年に麓の子どもも集団生活を体験させようという思いから合宿通学が始まり、平成 23 年からは公民館で実施することになった。

②合宿通学の様子

今年、6 月 13 日～17 日に 4 泊 5 日で行った。小学 3 年から中学 3 年までの 40 名が参加した。活動は、縦割り班活動で行われる。リーダーとなる中学生がグループの下級生をまとめ、みんなで協力して生活している。

＜朝の様子＞各自が身支度をし、きちんと布団をたたんで出かける。ラジオ体操や食事の配膳、片付けも子どもたちで行っている。

＜食事＞育成会や地域の方の協力で、手作りで提供されている。1 日おきの夕食は、子どもたちが手作りしている。1 日目には餃子を、3 日目には太巻き寿司、最後はバーベキューを行う。中学生が小学生に上手に教えている姿が見られる。



【食事作り＝太巻きずし】

＜入浴＞「波の華温泉」を利用しているが、火曜日は、礼儀と感謝を学ぶ機会として、「もらい湯」を行っている。指導員からの注意を聞き、それぞれの家庭へ向かっている。

＜宿題＞中学生が宿題をする時間になると O B の高校生が教えに来る。高校生は、小中学生や公民館との繋がりを大事にしてくれている。

＜洗濯＞体操服やカッターシャツのみ育成会の方が洗ってくれ、それを子どもたちが自分で干す。小さい子ども、何度もやり直しをされるうちに上手く干せるようになっていく。

③事業で得られたこと

公民館で実施するようになり、地区の方々が積極的に参加・協力するようになった。今年延べ 100 人の方の協力があつた。子どもたちにとって、家族以外の

人との触れ合いにより、他人への感謝の気持ちや他人のために働く喜びなどが身についてきたように感じる。この異年齢合宿通学が、世代を繋げる場、地域で子育てのできる場として、より大きな人の輪ができていくことを願っている。

(2) 主体的な活動を学ぶ「越廼リーダーズ倶楽部」

この事業は、「率先して地域づくりに力や知恵を出し合うための知識と経験を身につける」ことを目標に、平成24年に始まった。小学校3年生から6年生で構成されていて、今年は隣の殿下地区の子どもたちも参加し、18人で活動を行っている。

年2回の合宿（秋・冬）に向けて、必要な学習をするために、1年間同じメンバーで、月2〜3回程度集まり活動をしている。大人は作業に手を貸さず、見守ることを原則として事業を行っている。



【ドラム缶風呂作り】

平成24・25年度は、東日本大震災を踏まえ、災害時のリーダーとしての知識を身につけるための活動を行った。秋の合宿にライフラインをすべて断って生活することを目標とし、自分たちに必要な知識や道具は何かについて考えた。そのために、教えてくれる先生を見つけ、自分たちで手紙を書き、持っていってほしいし、体験する日取りを決めて学習していった。合宿当日は、自分たちで学び作ったドラム缶風呂に、工夫し苦勞して溜めた水を鉋や斧で作った薪で焚いて入るなどの貴重な体験ができた。

平成26年からは、「越廼を知り楽しむ」ことを目的とし、食材を自分たちで調達することや保存食を作ることなどを目指した。わかめを採って塩わかめやもみわかめを作ったり、魚釣りや魚捌きを学んだりした。船つりを経験し、魚の干物も作った。海水を使った豆腐作りや小麦粉でのパンやピザ作りにも挑戦した。

この活動を通して、自分で考えて行動する大切さや責任感、仲間への気配りや思いやりを学び、絆を深め

ることにより、協力して物事を達成する喜びを味わうなど、子どもたちの確かな成長が実感できた。また、講師や荷物運びなどで、多くの大人を巻き込むことができ、大人の成長にもつながった。

(3) 巨大イルミネーションの設置（青年教育事業）

毎年、11月に公民館西側駐車場に巨大イルミネーションを設置している。これまでは、高校生が中心に作成・設置していたが、今年は、中学生がデザインを考え、設置は青年団を中心に行われた。点灯式までに、折角できたものが壊されてしまうなどのアクシデントがあったが、無事、点灯式を迎えることができ、毎日午後5時から10時まで、点灯している。



【イルミネーション】

青年団と学生とのつながりが深まり、青年団活動の活性化につながっていくことを期待している。

3 終わりに

夏休みには、1泊2日で「児童社会体験学習」を行っている。また、放課後児童教室「なかよし教室」でも様々な体験活動を行っている。今年は、夏祭りで飾る竹灯籠を保育園・小学校・中学校と連携し、全ての子どもたちが制作し、飾ることができた。

自分で考え実践していく活動は、中学生が自ら計画し作り上げている「郷土新聞作り」や「越廼サミット」の活動にも発展してきている。

試行錯誤の中、事業を進めてきたが、子どもたちの郷土を誇りに思う気持ちや越廼を担っていこうという気持ちをさらに大きく育てることに繋がったと自負している。また、世代間の関わりもより強化できたように思う。

今後も、一人一人が越廼の将来を考え、創っていこうという意識が高められるように努めていきたい。



【体験実習船「こしの」】

地区の将来を見据え、青少年への期待を持って事業を進めている公民館の皆様の強い思いを、大変印象深く感じました。

子どもの成長だけでなく、多くの大人を巻き込むことで、住民の意識にまで入り込むことができている、地区の将来に向けて、大きな成果を上げているように思います。